

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和05年06月23日(金)

事務事業		花園消防署資器材管理事業		担当課	花園消防課	担当係	花園消防署	管理番号	61121	
総合計画	大項目	4 安心とやすらぎを感じられるまち		事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務					
	中項目	1 備えができて安全・安心なまちづくり		根拠法令 個別計画等	・消防法					
	小項目	2 消防・救急体制の充実								
	主要プロジェクト									
事業概要		資器材管理事業とは、市民の生命、身体及び財産を守るために火災、救急、救助等の災害活動時及び訓練時に使用する資器材の購入、更新、修繕及び保守点検を実施し、多種多様な災害現場に対応できるよう安定供給を図り、活動体制を維持するものである。								
目的 ※何のために		災害から市民の生命、身体及び財産を守るため。								
対象 ※誰・何を対象に		隊員が災害活動時または訓練時に使用する資器材等。								
手段 ※どのように		資器材の購入、更新、修繕及び保守点検を実施する。								
成果 ※何を求めるか		活動体制を整備し消防力の強化を図る。								
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NPO等 <input type="checkbox"/> その他()								
事務事業を 構成する 予算事業		区分	款		項		目		細事業名	前年度決算額(円)
		一般会計	9	消防費	1	消防費	1	常備消防費	花園消防署資器材管理事業	6,371,690
本事業の 主な業務		・各種資器材の購入及び更新							・	
		・各種資器材の保守点検							・	
		・各種資器材の修繕							・	
		・災害対策に関する消耗品及び備品の整備							・	
		・							・	
		・							・	

2. 事業費(投入コスト)

単位: 円

区分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
年度別計画		・空気ポンベ・消防ホース・潜水資器材	・空気ポンベ・消防ホース・潜水資器材	・空気ポンベ・消防ホース・潜水資器材	・空気ポンベ・消防ホース・潜水資器材		
事業費	予算(現額)	7,091,000	6,576,000	9,464,000	0		
	決算額	6,812,566	6,371,690	0	0		
	財源内訳	国支出金	0	0	0		
		県支出金	0	0	0		
		地方債	0	0	0		
		他特定財源	1,665,748	1,461,938	2,002,000	0	
		一般財源	5,146,818	4,909,752	7,462,000	0	
人件費	従事職員数(人)	1.00	1.00	1.40	1.40		
	人件費相当試算※	7,761,915	7,869,557	11,474,942	11,474,942		
総事業費試算		14,574,481	14,241,247	20,938,942	11,474,942		

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		目標値	単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
	目標値の算定根拠/実績値の出所		実績値							
	実績値の算出式									
活動指標 1	備品購入品目数		目標値	品目	4.00	8.00	8.00	8.00	8.00	8.00
			実績値		4.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所		資器材維持管理計画に基づく購入目標数とする。 / 備品購入品目数							
	実績値の算出式									
活動指標 2	保守点検実施率		目標値	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
			実績値		100.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所		呼吸・循環管理用資器材等の保守点検実施率 / 保守点検品目数／実施数×１００							
	実績値の算出式									
成果指標 1	資器材故障時における修繕率		目標値	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
			実績値		100.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所		資器材の故障に対する１００％の修繕を目標とする。 / 修繕数／故障件数×１００							
	実績値の算出式									
成果指標 2	災害時における資器材作動率		目標値	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
			実績値		100.00					
	目標値の算定根拠/実績値の出所		災害時における資器材１００％の作動を目標とする。 / 使用数／災害数×１００							
	実績値の算出式									
			目標値							
			実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
	実績値の算出式									
			目標値							
			実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
	実績値の算出式									

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に合う成果がでているかを評価します。
(評価基準) (A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない)

(1) 事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	A	各隊が使用する備品を計画どおり購入し配備することができた。また、資器材の保守点検についても計画どおりに実施することができた。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	A	年度中に故障等の不備が発生した4品目全てに対し修繕を実施し、災害時における資器材の作動率100%を達成した。
			評価者 課長補佐兼管理係長 飯野昌栄

(2) 事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。
(評価基準) (A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない)

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	A	同一内容の予算を持つ深谷消防課と消耗品類を一括契約するなどによって、契約事務や予算執行を効率的に実施することができた。
			評価者 課長補佐兼管理係長 飯野昌栄

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和3年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	新型コロナウイルスの影響によって、輸送費や原材料費等の上昇により価格高騰が続いている。また、例年よりも納期に時間を要する案件が多くなっている。これらの影響に左右されることなく、消防活動に必要な消耗品類を確実に確保するため、深谷消防課と同一内容の契約事務については、引き続き一括契約などによって購入価格の抑制を図りつつ、余裕を持った納期を確保するため、債務負担行為の設定などを検討する。
達成状況及び その効果	深谷消防課と同一内容の契約事務については、一括契約などによって購入価格の抑制を図ることができた。また、余裕を持った納期を確保するため、発注時期を見直し消耗品類を確保することができた。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	花園消防署資器材管理事業	担当課	花園消防課	担当係	花園消防署	管理番号	61121
<div>■ ①拡充, 重点化(コスト投入)</div> <div><input type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div> <div><input type="checkbox"/> ③見直して継続</div> <div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div> <div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div>		評価の内容説明					
		各種資器材の保守点検や消耗品、備品類の購入を計画的に実施し、活動体制を維持することができた。今後も引き続き、計画的な事業執行を行い万全な活動体制を堅持する必要がある。さらには、社会情勢の影響により消耗品等の物価が高騰しているほか、自動心肺蘇生器の導入に伴い維持管理費が増額することや、車両の複合化によって資器材の更新時期を見直す必要があることからこの評価とする。					
上記を実施するための具体的な取組内容は？		評価者	花園消防署長兼花園消防課長 小暮 誠				

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和5年度に実施する 改善・改革案 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	余裕を持った納期を確保するため、発注時期を見直すとともに、深谷消防課との合併発注などによって購入価格の抑制を図る。また、消防車両の複合化等により資器材の更新時期に変更が生じていることから、資器材維持管理計画を見直し、資器材の更新に係る消防費が突出した予算編成とならぬよう予算の平準化を図る必要がある。
令和6年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	持続可能な消防行政運営を図るため、消防力の適正配置による基盤を整備する必要がある。このことから、管内の災害発生傾向や地域特性を鑑み、必要資器材の計画的な更新を推進していく。

8. 評価指標グラフ

